

有言実行

宮城県

臥牛館道場

小学6年 青田 咲 椋

一人っ子の僕が、たくさんの人と関わりを持って、色々なことに挑戦できるようにと、両親は、小さいころからいくつもの習い事をさせてくれました。その一つが剣道でした。五才の時に道場で初めて剣道を見て、先生や先ばいの姿がかっこよくて「剣道をやると自分から入門を決めました。けい古をすることが楽しくて、小学一年で、念願の面を着けた時は、あこがれの先ばいに近づけたようでとてもうれしかったことを覚えています。

しかし、学年が上がるにつれて、けい古がきびしくなり、個人戦に出ても良い結果が出せず、負けては泣き、楽しかった剣道だったのに辞めたいと思うこともありました。それでも自分からやると決めたことなので、休まずけい古をがんばりました。

そのかいがあって三年になると、団体戦の補員に選ばれました。先ばい達と同じ試合胴を着けて、目の前で見ると試合は、体育館の上から応援するのとは違う気迫で圧倒されました。それから、僕の剣道に対しての気持ちが一気に変わりました。今まで、具体的な目標もなくけい古していましたが、きちんと目標を立てて、努力するようになりました。

僕の道場では、毎年先生方の前で目標を発表します。四年の時「自分のダメなところを直して、先ばい達と絶対に全国大会に行きます」と宣言しました。目標に向かって一生けん命けい古をして、宣言通り、全国大会のきつぷを手にした時は、辛いけい古もがんばって良かったと思えました。

五年の時は「下がらず自分から打ちに行き学年別大会でベスト8になる」と宣言をしました。県の強化選手になれる大事な試合なので、けい古以外でも、家でタイヤ打ちや体力をつけるために、走ったりと努力しました。

しかし、大会の一週間前、僕の住んでいる角田市は台風十九号のひ害に遭いました。道場へ行く道がかん水して通れず、一週間けい古ができなくなりました。今年も無理だとあきらめかけていましたが、試合の前日に、台風ひ害で、試合に出られなくなった後はいから「がんばってきてね」と言われ、その後はいの分も、がんばるぞ、と気持ちを奮い立たせ、試合に望みました。ベスト8になれたのは、その後はいの言葉や、先ばい達からの励ましの言葉で勇気をもらえたからです。

「有言実行」この言葉は、昨年の日本剣道少年団研修会の、書道の課題でした。実感していることなので、この言葉で賞を取りたいと毎日筆を持ち、何百枚と書きました。一年から応募していますが、去年は今までで一番の「剣道日本賞」をいただくことができました。

目標に向かって努力をしても、宣言通りになることは少なく、ざ折しそうな時もあります

が、それでもあきらめずに、実現させるぞ、と強い気持ちを持って努力を続けることで、いつかは達成できるものだと思います。

今年「キャプテンとしてみんなを引っ張り、後はい達を連れて全国大会に行くこと」を目標にするつもりでいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でけい古自しゅく、大会中止となってしまいました。くやしくてしばらく落ちこみましたが、気持ちを切り替え、いつけい古再開してもいいように、キャプテンとしての号令や、一人でできる練習を毎日していました。

けい古自しゅくから四か月経った八月、ガイドラインにそってけい古再開できました。今までとは違ったけい古ですが、みんなと顔を合わせてできる喜びは最高です。

小学生最後の年、一試合も参加できないかもしれませんが、僕を支えてくれている方々への感謝の気持ちを忘れず、今できることを全力で取り組み、また新たな目標を見つけ「有言実行」できるように努力して行きます。